

2024 年度 日本建築学会近畿支部

親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」終了報告書

日時：2024 年 8 月 24 日（土）10:00～17:00

場所：学校法人京都建築学園京都建築専門学校

親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」は、小中学生とその保護者を対象として、京町家の伝統技術の一つである土壁塗りを体験するもので、今年は 20 回目の開催となる。本企画は日本建築学会近畿支部および学校法人京都建築学園京都建築専門学校の主催、京都市・京都市教育委員会および公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターの後援、京都府建築工業協同組合・京都府左官技能専修学院の協力により実施された。

例年人気の本企画であるが、今年度も定員を上回る応募があり、抽籤で 15 組に絞ることとなった。当日は若干のキャンセルがあったものの 12 組、34 名の親子が参加した。以下では当日の概要を報告したい。

午前 10 時、京都市上京区の京都建築専門学校本校舎 3 階に参加者とスタッフが集合して建築教室が始まった。当日の司会進行役で委員長をつとめる岩本常議員が開催挨拶を行い、つづいて仁井常議員が「土壁のひみつ」と題して、子供たちに向けて土壁の構造や利点について、アニメーションなども駆使しながら分かりやすく解説を行った。

つづいて、参加者とスタッフの自己紹介を行った。応募のきっかけとして、泥んこ遊びが好きだからという子供らしい理由から、自宅に土壁がある（あった）からという理由、夏休みに海外からの帰省中で我が子に日本の伝統文化を体験してもらいたいという保護者の思いなど、参加者がさまざまに土壁に興味を持たれていることが分かった。

自己紹介によって場がほぐれたところで、当日の会場を提供してくれた京都建築専門学校の佐野春仁校長から、当日のスケジュールについての説明が行われた。これで一通りのガイダンスが終了し、参加者は荷物をまとめて 1 階ピロティに移動した。

午前中の教室では、土壁の下地にあたる小舞編みの体験を行った。予め用意されている木枠に、竹を縦横に渡して稲藁縄で結わえつける作業である。作業にはたくさんの縄を次々に使っていくので、縄の束を腰にまわし付けるのであるが、佐野校長の「浦島太郎みたいでしょ？」という言葉に参加者からは笑い声が上がっていた。全部で 7 台の木枠に 12 組の家族で作業することになるので、必然的に家族同士での協力が発生し、だんだん距離が縮まっていっているのが見て取れた。作業は順調に進み、お昼前には一通り小舞編みも完了した。藁縄を継ぎ足す方法を学んだことを活かして大縄跳びで遊び出す子供達もいて、子供の発想力の豊かさには驚かされた。

お昼休憩の後、佐野校長の案内により本校舎からほど近い葎屋町町家校舎の見学会が行われた。これは上京区葎屋町通下立売下丸屋町にある長屋建築の一部で、大正元年（1912）の棟札が確認されているという。もとは蒲鉾店として利用されていたものを耐震補強して町家校舎として活用しているものである。参加者は 2 グループに分かれて見学し、押入から現れる階段に驚い

たり、聚楽土の壁、京唐紙の襖などに見入ったりしていた。

見学会終了後は再び本校舎に移動し、午後の部の荒壁塗り教室が始まった。これは、午前中に作成した竹小舞の上に鍬を使って土を塗りつけ、荒壁をつくる体験である。まずお手本を佐野校長が披露し、続いて参加者も鍬と鍬板を手に作業を始めた。佐野校長が軽々と塗っているように見えた土も、実際に手にしてみると非常に重く感じられたようで、参加者は苦戦しながら少しずつ土を壁に塗りつけていっていた。最初は服を汚さないように慎重に土を扱っていた子供達も、時間が経つにつれて段々と大胆になり、それとともにコツも掴んできたようで、竹小舞はみるみるうちに土で覆われていった。今年は水の配分を変えて、表面はややかために、裏面はやわらかめの土を使うようにしたようであるが、そのため表面はやや苦労したぶん裏面はスムーズに作業が進んだように見えた。

70分ほどで参加者は荒壁を一通り塗り終わり、ここで京都府左官技能専修学院院長の佐伯護棟梁による中塗りの実演が行われた。棟梁の手さばきは流石の熟練の技で、極めて滑らかな仕上がり一同驚嘆の表情を浮かべていた。佐伯棟梁に促されて仕上がった壁の上に押した手形は子供たちにとって大きな思い出になったと思う。

作業終了後はクーラーの効いた3階の教室に戻り、参加者にはアンケートを記入いただいた。その後で今日の感想を一組ずつお願いしたが、みんなで協力できて良かった、最初は土の発酵した臭いが気になったが最後は手づかみでも平気になった、人の手で作る建築のあたたかさを感じた、京町家にもふれられて良かった、などの声が寄せられた。つづいてボランティアとして参加した京都大学の陸源欣可さん・崔宣萌さん・富岡大機さんから、手描きのスケッチによる当日のふりかえりが行われた。これで教室のプログラムは終了し、参加した子供達は「ちびっこ親方」として認定され、佐伯棟梁と山崎泰寛常議員から写真入りの修了証が授与された。

最後に長嶋史明常議員（副委員長）より全体講評、佐野校長より挨拶が行われ、教室は終了となった。当日はよく晴れて最高気温36度にまで達する暑い一日であったが、熱中症などの事故もなく完了できたことは幸いであった。当日の進行を裏方で支えてくださった京都建築専門学校スタッフの皆さんにも感謝申し上げたい。

日本建築学会近畿支部 常議員
岩本馨（文責）・長嶋史明・仁井大策・山崎泰寛

